

平成二十二年度卒業式式辞

ときまさにウメの花が咲き、冬から春へと、国際アカデミーのキャンパスにも春の花の時期が始まるうとしています。

本日、この岐阜県立国際園芸アカデミーを卒業してゆく二十五名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

ご参列の保護者の方々にも、心よりお祝いを申し上げます。

また、この度はご多忙にもかかわらず、岐阜県議会議長および議員の先生方をはじめ、可児市長様、県農業高等学校校長会会長様、十六銀行様、大垣共立銀行様、県農政部長様、農産園芸課長様、当校運営諮問会議会長様、岐阜花き流通センター農業協同組合様、同窓会様、各農林事務所長様、客員教授、非常勤講師の先生方、多数のご来賓方々のご臨席を賜り、ここに岐阜県立国際園芸アカデミー卒業式を挙行できますことは、大きな喜びでございます。皆様方には平素から本校の教育に多大なご支援、ご協力を賜っておりますことに、この場をお借りまして改めて厚く御礼申し上げます。

さて、卒業生の皆さんは四年前または二年前に大いなる志をもって、花と緑のエキスパートになるべく当校に入学されてこられました。今、この日を迎えるにあたって、皆さんはこのキャンパスで過ごした間の楽しかったことや苦しかったことなど色々な思い出がめぐつてくると思います。その思い出は、皆さんを送り出す私たち教職員も同じです。共に学んだ友人、キャンパス、時間など、その思い出はお互いの人生にとってかけがいのないものです。そのかけがいのない経験が、これからの人生の大切な糧となることを願っています。そして、国際園芸アカデミーで学んだことを誇りにして自信をもって生きて行つてほしいと思っています。これまでは、学校という場で、指導者に見守られ、少々のことで失敗をしても許されることもありました。しかし、これからは実際の社会で、これまで学んできたことを実践するとともに、チームで仕事をし、また競争してゆかなければなりません。本人がもっている能力が試され、自分で人格を磨き、自らを高めてゆくのです。昨日の新聞にも、有名な聖路加国際病院理事長の日野原重明氏がおっしゃった言葉が出ていました。そこには、卒業というと、日本では業を終えることを意味するが、アメリカでは、卒業はコメントメント・エクササイズといい、実習の始まりという意味であると書かれていました。つまり、卒業は人生のスタートであり、実社会での学びの本番はこれから始まるということです。日野原さんは今年で百歳を迎えられるそうです。今でも現役で医療と数多くの役職につかれ、生涯現役を続けておられます。皆さんもこれから本当の学びが始まるのです。

そのような門出にあたり、先人が残していつてくれた手元にも示しました、これから述べる言葉を捧げたいと思います。

その言葉は、「一燈を掲げて暗夜を行く。暗夜を憂うること勿れ。只だ一燈を頼め。」

で、幕末の儒学者、佐藤一斎の「言志四録」にあります。佐藤一斎は幕府直轄の教育機関であった昌平坂学問所を指揮していた人物で、儒学だけでなく、老荘思想や陽明学も修め、東洋の思想、学問に通じていました。この「言志四録」は、彼が四十二歳から八十二歳までの四十年間に渡って思索した成果を納めた語録で、全部で千百三十三条の短い言葉からなる人生の指南書です。彼の弟子には佐久間象山があり、その教えは佐久間象山の門下生、勝海舟、吉田松陰、坂本龍馬に引き継がれてゆきます。また、西郷隆盛はこの「言志四録」を生涯座右の書としていました。まさに、幕末から明治の草創期に活躍した人たちの指南書になっていたので。

さて、この「一燈を提げて暗夜を行く。暗夜を憂うること勿れ。只だ一燈を頼め。」の意味ですが、皆さんに分かりやすい言葉にしますと、「暗い夜路を歩く場合、一つの提灯をさげて行くならば、いかに暗くとも心配するな。ただ、その一つの提灯を頼りにして行けばよいのだ。」ということになります。大切なそれぞれの人生、自分にとっての一燈とは何かということを真剣に考え、これと決めた一燈をよりどころとして、その明かりをより明るいものにするよう努力しなさいという意味です。この一燈は、精神的な支え、目指すところ、何でもかまいません。また、人生の変遷のなかで変わってくるかもしれない。ただ、いくつも同時に持ってしまおうと、かえって明るくなりすぎてどちらに進んでよいか分からなくなってしまう。今の情報化社会では、燈を一つに絞ることは、迷わないという意味でも大切なことだと思えます。今の自分の一燈は何か、もう一度、自らに問いかけてみてください。それがみえてくると先が開けてくると思います。

最後にあたり、ここにめでたく、皆さんが卒業を迎えられるのは、もちろん皆さんの日頃の努力のたまものですが、同時に周りで支えてくれたご家族と教職員のお陰でもあることも伝えておきたいと思えます。その感謝の気持ちをお忘れず、それに報いるのは、これからの人生において社会に還元してゆくことに他なりません。そのことをくれぐれも忘れないでください。

以上、皆さんの将来に幸多きことを祈って、はなむけの言葉といたします。

平成二十三年三月吉日

岐阜県立国際園芸アカデミー 学長 上田善弘